

AMCoR

Asahikawa Medical University Repository <http://amcor.asahikawa-med.ac.jp/>

看護研究集録(2016.10) 平成27年度:71.

人工膝関節置換術を受けた患者の退院後リハビリテーション継続に影響する要因

長澤 まりな, 杉本 裕香, 穴戸 美紀

人工膝関節置換術を受けた患者の退院後リハビリテーション継続に影響する要因

旭川医科大学病院 8階西ナーステーション

○長澤まりな、杉本裕香、穴戸美紀

【研究目的】人工膝関節置換術(以下TKA)後の患者の中には、入院中は意欲的にリハビリを継続できていたが退院後、疼痛の持続などによりリハビリができず、退院後の目標を達成できない患者がいた。そこで、TKAを施行した患者の退院後のリハビリ継続に影響する要因を明らかにする。

【研究方法】質的事例研究、平成26年度8月～11月にA病棟でTKAを施行し、退院後6ヵ月目の患者3名を対象とし、研究を行った。インタビューガイドをもとに半構造的面接を実施した。逐語録を作成し、リハビリに関する情報を抽出し、対象者ごとに類似性のあるものをカテゴリー化し分析した。倫理的配慮として、研究対象者に研究の趣旨、研究参加の自由意思と途中辞退の自由、プライバシーと個人情報の保護、結果公表における匿名性を説明し、本研究は倫理委員会の承認を得た研究計画書に基づいて実施した。

【結果】退院後のリハビリ継続に影響する要因として、A氏(70代女性)より5個のカテゴリーと68個のコード、B氏(70代女性)より5個のカテゴリーと41個のコード、C氏(80代男性)より5個のカテゴリーと83個のコードが抽出された。対象者に共通したカテゴリーとして「目標を明確にもっている」「ADL向上の実感」「リハビリを日常生活に取り入れている」「膝の症状が及ぼす影響」の4つが得られた。また個々から得られたカテゴリーとして、A氏は「家族の励ましがある」B氏は「反対側の失敗経験からリハビリの必要性を再認識している」C氏は「入院前の運動習慣がもたらす影響」が得られた。

【考察】

1. 退院後のリハビリ継続に影響する促進要因
貝塚らは、患者のQOLを考えると目標は個々

の患者の状況によって異なってよいが、患者が「これに向かって頑張ろう」「これに向かってなら頑張れる」と思えることが必要であると述べている。「目標を明確にもっている」ことでリハビリへの動機づけとなり、意欲を高めることができたといえる。対象者全員が「リハビリを日常生活に取り入れている」ことから、新たなリハビリを開始したのではなく、その人らしい生活動作がリハビリとなっていたため、苦痛なく継続できたと考える。目標達成を積み重ねた結果、生活の中で「ADL向上の実感」が得られ、自己効力感を高めリハビリ継続へ繋がったと考える。

2. 退院後のリハビリ継続に影響する阻害要因

退院後も膝の疼痛や腫脹などの「膝の症状が及ぼす影響」があり、リハビリ意欲に関与していると考えられる。膝の症状には個人差があり、苦痛が大きいとリハビリの意欲低下に繋がる一方、苦痛が小さければリハビリ意欲の向上に繋がり、身体的症状が精神面へ大きな影響を与えているといえる。

【結論】

1. TKA患者の退院後のリハビリ継続に影響する要因として、各5カテゴリーが抽出された。
2. 退院後のリハビリ継続に影響する促進要因として、「目標を明確にもっている」「ADL向上の実感」「リハビリを日常生活に取り入れている」「家族の励ましがある」「反対側の失敗経験からリハビリの必要性を再認識している」「入院前の運動習慣がもたらす影響」が抽出された。阻害要因として、「膝の症状がリハビリに及ぼす影響」が抽出された。